

# 社会科学学習指導案

1. 大単元名 新しい国づくりをみつめよう

小単元名 二つの戦争と日本・アジア

2. 単元目標

日清・日露戦争の経緯と、その背景にある国際状況を理解し、日本とアジア諸国との関係の変化についてとらえることができるようにする。また、国内の産業や社会の様子の変化もとらえることができるようにする。

(関心・意欲・態度)

日清・日露戦争の経緯や国内の産業・社会の情勢について調べようとする。

(社会的思考・判断)

日本が条約改正に成功した理由が、明治の諸改革やアジアでの2度の戦争とどう関わっているのかを考える。

(技能・表現)

2つの戦争の経過やその後の社会的な状況、人々の暮らしについて調べることができる。

(知識・理解)

2つの戦争と近代産業の発達、民主主義を求める動きの高まりの関連性が分かる。・国際社会での日本の地位の変化が分かる。

3. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫

(1) 単元と指導について

本単元は、学習指導要領第6学年の「2内容、(1)のキ」「大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」をうけたものである。

この時代、日本は国内的には明治維新の急激な社会の変化の中で、西洋を手本に国づくりをすすめて、西洋と対等の地位をめざそうという機運の高まりを見せていた。また、国際的には、各国が領土の拡大をめざし、植民地を獲得しようとして動いていた。日本も同様に、朝鮮に対して武力での進出をめざしていた。朝鮮の支配権を争う日本と清国、満州への進出をめざしていたロシアは、ともに相手国の出方をうかがっていた構図である。それが、日清・日露戦争を経て、朝鮮(韓国)併合へとつながっていった。

以上のような時代状況から、本単元では、歴史的な事象や人物についての資料を調べ、日本を取り巻く国際情勢に目を向けさせながら、我が国が国際的地位を向上させる努力が、はからずとも国際紛争を招き、植民地支配にまで及ぶ道筋の不条理を感じとらせたい。

本中単元の指導にあたっては、次の4点に特に留意したいと考える。

まず、導入資料の扱いを丁寧に行いたい。歴史への関心は強い子ども達であるが、その関心を更に引き出し本時への課題意識を高めるため、資料を大事にしていきたい。その際、ポイントを押さえた活用を心がけ、本時に扱う日露戦争では日本とロシアとの関係と結びつくような視点を持って資料を取り扱いたい。また、学区内には小田原という土地柄、明治時代の多くの皇族・政治家・実業家・芸術家が足を運んでおり、たくさんの史跡があるので、そ

れらを提示し身近に感じさせたい。

次に、繰り返し学習を意図し、既習内容の活用を図りたい。学習内容の十分な定着を図るため、過去との比較（出来事）業績の比較（人物）など歴史のつながりを意識させながら授業を進めたい。そのため、発問の中にも既習事項を引き出す工夫をしたい。

3つめに、自力解決の場面で、調べた事実をもとに、背景、原因や影響を考える学習を大事にしたい。そのため調べ学習に入る前に、しっかりと見通しを持たせたい。一つ目は、「調べること」の見通しで、出来事であれば「背景・原因・結果・様子」などを視点としたい。二つ目は「調べる方法」の見通しで、教科書・資料集のページを確認させたり、どの図表を見ればいかに注目させたりして、自力解決をより深めたい。

最後に発表の場では、調べた事実をもとに、時代背景や原因などを関連させて自分なりの考えを発表することができるようにさせたい。そのために自分が課題設定した「疑問」を解くこと、また同じ疑問どうしを小グループの場で話し合うことにより、全体での発表への抵抗を少なくして、気軽に話し合う場を作りたい。また、授業の流れをパターン化することにより、子どもたちが先を見通して学習に臨むことを期待したい。社会に対して苦手意識を持っている児童には、主体的に学習できるように、毎時間のヒント（キーワード）を用意する。ヒント（キーワード）についての、最終的なねらいは自ら課題を見つけ解決することであるが、現在苦手な児童は、どこを課題にしたらいいかさえつかめない状態であることから、教師が課題を設定する事で手助けをしたい。

このクラスでは児童の思考が「課題をつかみ」「自分なりに解決し」「知識を得る」「歴史的事象について自分の考えを持つ」ことがひびきあいだと思う。ポイントになるところは「話し合い」であろうと思う。話し合いをもとに自分の考えをノートに整理し、スムーズに授業が進行することを期待したい。最終的に願うのは、全員参加の授業である。どの子どもも自分なりに課題を追求して、自分なりに表現し、感想を持って欲しいと思っている。

#### 4. 単元指導計画（13時間）

時	学習活動	主な支援・留意点（評価）
1	<p>ノルマントン号事件について話し合う。</p> <p>・ドレイク船長，日本人客，日本人客の家族や国民はなんと思ったのか。</p> <p>裁判結果について話しあう。</p> <p>不平等な条約をなんとか変えたい。</p> <p>日本は不平等な条約をどのように改正したのだろうか。</p>	<p>条約改正の必要性を焦点化させる。</p> <p>（関・意）（思・判）</p>
2	日本の条約改正の取り組みを予想し，調べる。	<p>条約改正に向けて，日本が行ってきたことを自分なりに予想させる。</p>
3	調べたことを発表し合う。	
4	日本の条約改正の歩みについて話しあう。	
5	<p>日清・日露戦争とはどんな戦争だったのだろうか。</p> <p>日清日露戦争について調べる。</p>	

6		2つの戦争の原因・経過・結果を確認していく中で、様々な立場に立って考えさせる。 (思・判)(技・表)(知・理)
7	調べたことを発表し合う。	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>日清・日露戦争の比較をしてみたい。</li> <li>日露戦争ではなぜ賠償金が取れなかったのか。</li> </ul>	
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争は日本の力を世界に示すことができたと思う。</li> <li>国際的地位は上がったが、それ以上に犠牲も多く、国民の望んだ講話ではないし、戦争に勝ったとはいえないのではないか。</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの戦争について考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えの根拠となる資料を明らかにさせたい。</li> </ul>
10		
11	<p>この後、人びとの暮らしや社会状況はどうなっていくのだろう。</p> <p>人々のくらしや社会の変化について調べる。</p>	
12	調べたことを発表し合う。	
13	次の学習の方向性を話しあう。	(関・意)(技・表)(知・理)

## 5. 本時について

### (1) 本時目標

朝鮮の支配権をめぐった満州を主な戦場とした日露戦争について、原因・内容・結果がわかる。

### (2) 本時展開

学習活動	指導上の留意点
1. 前時の復習と本時の学習のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">日露戦争とはどのような戦争だった</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに意味の分からない言葉について調べておき、自分の考えをもてるようにする。</li> <li>考えたことをノートにまとめさせる。</li> </ul>
2. 日露戦争について小グループで話しあう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本と同様に朝鮮をねらっていたロシアと対立を深め、戦争が始まった。</li> <li>13万人の兵士の半数が死傷した。</li> <li>日本は勝利したが、軍隊や物資をつぎ込む力がなくなり、講話条約を結んだ。</li> <li>賠償金が得られなかったため講話に反対する人もいた。</li> <li>戦場は朝鮮であった。</li> <li>戦争の勝利に喜んだ人もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を調べるのか確認する。(戦争の原因・様子・結果)</li> <li>日清戦争の比較も考慮に入れるよう指導する。</li> <li>手の着かない児童には支援を行う。</li> <li>班で全員が発表できるようにする。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌人の与謝野晶子は戦争に反対する歌を発表した。また、石川啄木も疑問を抱く歌を残した。</li> <li>・ 税金が上がり、物価も激しく上がり、国民生活が苦しくなった。</li> <li>・ 朝鮮を併合し植民地にした。</li> </ul> <p>3．全体場で自分の意見を発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちと調べたことや考えが似ているところ。又は、違うところを聞きながら、自分のノートにまとめさせる。</li> </ul> <p>4．今日の学習を通して自分の考えをまとめ、時間があれば、感想を発表させる。</p>	<p>友達の考えに関心を持ち、自分の考えを確かめたり、深く理解しようとする。(観察・発言)</p> <p>自分の考えと友だちの考えを比べながら話し合いに参加しようとしている。(関心・意欲)</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

6．成果と課題（校内研究会の意見から）

成果

- ・ スライドをつかったのは視覚的效果がありよかった。
- ・ 時代背景を踏まえて学習していた。
- ・ 調べ学習は子ども達の意見がたくさん出ていてよく調べられていると感じた。
- ・ 学区が明治時代の政治家・文豪・実業家が別荘として住んでいた場所にあり、学区の地図に史蹟や跡地を示す石碑の場所をかきこんだ。子どもたちはそれを見て、身近なイメージを持ったようである。
- ・ 予想を踏まえて学習していたので良かった。
- ・ 班での情報交換は、資料を子どもたちが自分でたくさん持っていたので、いい情報交換ができていた。

課題

- ・ 歴史的事項がとぎれとぎれになっていて、流れがつかみにくい児童もいたのではないかな。
- ・ 調べ学習が進んでいた児童のやり方を紹介してあげると、他の児童のいい参考になるのではないかな。
- ・ 情報交換で終わってしまうグループもあった。
- ・ 原因のグループや内容のグループにわけてやればもっと活発に意見交換ができたのではないかな。
- ・ グループで発表したことが全体のつながりになれば、もっといい。
- ・ 授業で何を狙いたいのかな、一本話の筋が必要である。
- ・ 不平等条約なら不平等条約の話し合いの方がいいのではないかな。